

平成28年度全国学力・学習状況調査結果分析と改善方策（宇佐市）

平成28年度全国学力・学習状況調査結果 平均正答率（％）一覧

	小学校6年				中学校3年			
	国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
宇佐市	76.4	60.0	81.2	48.3	74.4	66.6	61.4	41.0
大分県(公立)	72.7	58.2	77.9	46.7	74.7	66.2	60.9	42.1
全国(公立)	72.9	57.8	77.6	47.2	75.6	66.5	62.2	44.1

小学校 国語

1 調査結果の分析

小学校：国語 A

- 全国値を 3.5P 上回っている。
- 観点別でも、すべての項目において全国値を上回っている。
- 「ローマ字を書く・読む」の設問において、正答率が高いが、無答率も高い。

小学校：国語 B

- 全国値を 2.2P 上回っている。
- 観点別でもすべての項目において全国値を上回っている。
- 「目的に応じて効果的な読み方を工夫する」「文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながら読む」問題については全国に比べ正答率が高い。
- 「表やグラフをもとに自分の考えを書く」問題において、全国に比べ、正答率が低い。

2 具体的な改善方策

(1) 更なる言語活動の充実

- 付けたい力を明確にし、常に意識をさせながら言語活動を行う。
- 特に「表やグラフ」等、さまざまな資料情報をもとに目的に応じて自分の考えを書く活動を計画的に取り入れる。

(2) ローマ字や漢字、文法、表現技法等の確実な習得のための指導法等の工夫

小学校 算数

1 調査結果の分析

小学校：算数A

- 全国値を 3.6P 上回っている。
- 領域別でも、すべての項目において全国値を上回っている
- 「図形」の項目について課題が見られる。

小学校：算数B

- 全国値を 1.1P 上回っている。
- 領域別では、「数と計算」「量と測定」の項目で全国値を上回っている。
- 「図形」「数量関係」の項目では、全国値を下回っている。
- 「図形」に関する設問の正答率が全国に比べて低く（コンパスの操作、四角形の敷き詰め）、昨年に引き続き「図形」領域に課題が見られる。
- 「グラフから読み取ったことを根拠に記述する」「単位量あたりの大きさを求めるために必要な情報を選ぶ」設問の正答率が全国に比べて低い。

2 具体的な改善方策

- (1) 問題解決的な学習（算数的活動）の充実
 - 言葉や数、式、図、表やグラフ等を用いて、自分の考えを表現したり、説明したりする活動を設定する。
- (2) 実感を伴う操作活動等の充実
 - 具体物を用いた実感を伴う授業の工夫や、作図における操作活動等により、「図形」の特徴についての理解と確実な技能の習得を図る。

中学校 国語

1 調査結果の分析

中学校：国語A

- 全国値を 1.2P 下回っている。(昨年度…+0.1P)
- 領域別では、「読む」領域に課題が見られる。
- 「資料等の活用」「慣用句」「歴史的仮名遣い」に課題がある。

中学校：国語B

- 全国値を 0.1P 上回っている。(昨年度…-0.6P)
- 領域別では、「書く」「読む」の両項目で全国値を上回り、前年度調査からの伸びが見られる。
- 「目的に応じて必要な情報を読み取る」「要旨を捉える」問題に課題が見られる。

2 具体的な改善方策

(1) 更なる言語活動の充実

- 付きたい力を明確にし、常に意識をさせながら言語活動を行う。
- 新聞記事やパンフレット、図や表など、さまざまな資料を用い、必要な情報を取捨選択しながら、自分の考えを記述するような授業を計画的に行う。

(2) 多様な図書資料等を活用する授業の推進

- 学校図書館の利活用、朝読書等により、さまざまな文体や文章表現に慣れ親しませる。
- 説明文、物語文等について、段落ごとや全体の要旨をまとめる活動を計画的に行う。

中学校 数学

1 調査結果の分析

中学校：数学A

- 全国値を 0.8P 下回っている。(昨年度は-2.2P)
- 領域別では特に「資料の活用」において課題がある。
- 「比例式」「一次関数(変化の割合)」の正答率が全国値に比べて高い。
- 「分数×小数」「平行線や角の性質」「比例(増加量)」「硬貨を投げた時の確率」において正答率が全国値に比べて特に低い。

中学校：数学B

- 全国値を 3.1P 下回っている。(昨年度-3.0P)
- 領域別では、特に「図形」領域に課題が見られる。
- 「三角形の合同を利用した証明」「与えられた条件をもとに三角形の形を説明する」等、図形に関する説明、証明に課題がある。

2 具体的な改善方策

- (1) 問題解決的な学習(数学的活動)の充実
 - 言葉や数、式、図、表やグラフ等を用いて、自分の考えを表現したり、説明したりする活動を設定する。
- (2) 実感を伴う操作活動等の充実
 - 具体物を用いた実感を伴う授業の工夫や、作図における操作活動等により、「図形」の特徴についての理解と確実な技能の習得を図る。
- (3) 習熟度別指導や個に応じた指導をなお一層充実させる。

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（児童・生徒質問紙）

1 調査結果の概要

児童質問紙

【基本的な生活習慣等に関する事項】

- 家の手伝いをする児童は、全国・県よりも多い。（全国比+4.2P 県比+4.6P）
- 3時間以上ゲームをする児童はやや少ない。（全国比-2.1P 県比-1.0P）
- 平日3時間以上テレビを視聴する児童が、全国・県よりも多い。
（全国比+6P 県比+2.9P）
- 新聞をよく読んでいる児童は全国より少ない。（全国比-2.4P）
- 家庭学習の時間は、全国・県よりも低い。（全国比-3.0P 県比-1.6P）

【学級、学校生活について】

- 「自分の考えや意見を発表することが得意」を考える児童は、全国や県よりも多い。
（全国比+7.9P 県比+7.7P）
- 「学級でのきまりをみんなで決めている」「学級会で話し合い、意見をまとめている」など、学級のまとまりを肯定的に感じている児童は全国や県よりも多い。
（全国比+5.0P 県比+6.5P）

【規範意識等に関する項目】

- 地域の行事やボランティア活動に参加したことのある児童は多い。
（全国比+6.5P 県比1.1P）
- 「先生は、分かるまで教えてくれる」「よいところを認めてくれる」について、肯定的回答が多い。（全国比+2.8P 県比+1.2P）
- 「授業中わからないことは、先生や友だちに聞く」児童が多い。
（全国比+8.1P 県比+8.5P）

生徒質問紙

【基本的な生活習慣等に関する事項】

- テレビやゲームの時間が全国値より多い。
(テレビ3時間以上…全国比+11.1P 県比+11.6P、ゲーム3時間以上…全国比+2.3P 県比 +5.1P)
- 1日2時間以上を携帯電話やスマートフォンの使用に費やしている生徒が多い。
(全国比+1.9P 県比+4.2P)
- 家庭学習の時間は、県に比べると少ない。また、「復習」はしているが、「予習」まではできていないと回答する生徒が多い。(2時間以上…県比-10.4P) (復習…全国比+7.7P 県比+2.2P) (予習…全国比-3.9P 県比-3.7P)
- 新聞を読んだりニュースを見たりする生徒は、全国・県に比べて少ない。
(週1回以上見る…全国比-5.4P 県比-4.5P)

【学級、学校生活について】

- 「将来の夢や目標を持っている」生徒は、全国・県よりも多い。
(全国比+4.8P 県比+4.9P)
- 「自分の考えや意見を発表することが得意」と考える生徒は、全国や県よりも多い。
(全国比3+.3P 県比+3.0P)
- △ 「自分にはよいところがある」について、肯定的な回答が全国、県より少ない。
(全国比-5.6P 県比-4.5P)

【規範意識等に関する項目】

- 地域の行事への参加する生徒が多い。(全国比+4.8P 県比+1.1P)
- 規範意識(人が困っているとき進んで助ける)は、低い傾向にある。
(困っている人…全国比-4.1P 県比-5.0P)

【授業、学習について】

- 「先生は分かるまで教えてくれる」について、肯定的回答が多い。
(全国比+5.0P 県比+2.0P)
- 1時間の授業の目標・まとめ・振り返り、ノートへの記述などがよくされていたと答えている生徒が多い。(目標・まとめ…全国比+7.2P 県比+2.2P)
(振り返り…全国比+10.0 県比+5.1P)
(ノート…全国比+15.3P 県比+5.0P)

2 児童・生徒質問紙の調査結果をふまえて

- ◇ 「認め合う・支え合う・学び合う」等、人間関係を構築するために、学校・学級独自の取り組みを進めていく。
- ◇ PTA、地域と連携した取り組みを増やす。
- ◇ 規範意識、自己肯定感を高める取り組みを進める。
- ◇ テレビ視聴時間や携帯電話・スマートフォンの使用改善等に向けて、PTAと連携した小中共通の取り組み等をさらに進める。

平成28年度 全国学力・学習状況調査結果（学校質問紙）

1 調査結果の概要

小学校：学校質問紙

- 児童の実態や地域の現状等に基づいた教育課程の編成を行い、全教職員の共通理解のもと、各校で教育活動が実施できている。
- 学習規律の維持について徹底を行っている。
- 近隣の小中学校と連携した研修や交流が行われている。

中学校：学校質問紙

- 生徒の実態や地域の現状等に基づいた教育課程の編成を行い、全教職員の共通理解のもと、各校で教育活動が実施できている。
- 「知識や技能の活用」「言語活動」に重点を置いた指導計画が作成されている。

2 学校質問紙調査の結果をふまえて（今後の課題）

- ◇校長のリーダーシップのもと、今後も組織として学力面や生活面の課題を共有し、取り組みに当たる。
- ◇「1時間完結型の授業」において、「追及すべき事柄を明確にする絞り込んだ課題」とそれに対応する「追及した結果を明確にするためのまとめ」の徹底を図る。
- ◇「板書の構造化」において、児童・生徒が「振り返りのできるノートづくり」による思考の見える化を図る。
- ◇授業における「具体的な評価規準による確かな見取り」と「教師からの切り返し・問い返しの発問の準備」により、個に応じた指導の徹底を図る。
- ◇中学校においては、近隣校合同研修会や教科部会を充実させ、指導力の向上を図る。
- ◇ICTや学校図書館を活用した授業を推進する。